

令和5年1月21日

地域町内会・自治会 会長各位

鴨志田緑小学校地域防災拠点
委員長（寺家町内会長） 金子輝久

遠赤外線ヒーター購入と拠出金に関して

1 背景

内閣府の防災対策実行会議では、令和3年12月に避難時における防寒対策等を発表し、日本海溝・千島海溝地震での低体温症を2～4万人と予想し、以下防寒対策の重要性を提案しております：

- 避難所において、防寒機能を備えた空間を確保し、防寒具、暖房器具、飲料水、食料等を備えておく必要性
- 長期的な避難生活においても、防寒機能を備えた空間を確保し、防寒具、暖房器具、飲料水、温かい食事等を提供できる体制を整備
- 平常時より住民に対し、防寒具等の避難時に所持すべき物の普及啓発活動

2 緑小防災拠点の防寒対策等の現状

本年度（令和4年）の防災訓練は、「夕方・夜間での地震発生を想定し、拠点の防災力の検証」に力点を置き実施した結果として、下記が検証されました：

- 停電時夜間に必要な発電機の電力源（カセットボンベ）は、3日分確保出来ているが、ガソリンの備蓄は十分で無く、住民自家用車からの供給が必要（EV・ハイブリッド車からの電力やガソリンの供給等）
- 体育館避難所、保健室医療拠点及び簡易トイレ用投光器の必要台数は確保
- 暖房機器用の灯油は、緑小の備蓄を借用（140ℓ）する事で3日分は確保されているが、体育館の広さに対応する台数が不足（現状大型1台であるが、理想は4台）

3 遠赤外線ヒーター購入案

鴨志田中学校は、現在大型ヒーター3台と小型ヒーター8台及び灯油の「少量危険物取扱所」にも240ℓの備蓄を有しており、災害時での借用を校長に申し入れたが、バックアップとしての中学の機能からして困難との回答ありました。

結論としては、拠点での購入が当面の解決策であり、追加として1台購入する事が最善と判断しました。

但し、1台当り18万円程度であり、拠点予算での購入は困難であるため、地域町内会・自治会にその半額を来年度の特別居拠出金として予算化していただく提案としました（詳細金額は別紙Bを参照）。

上記背景・現状に加えて、南海トラフの大地震発生の可能性も高まっているとの内閣府の発表も1月13日ありました。緊急性ある対応策をご理解いただき、拠点の防災力強化にご協力をお願いいたします。

資料 A 遠赤外線温風ヒーター



H850×W710×D670mm

暖房の目安：コンクリート 44 坪（145㎡）：緑小体育館 154 坪（510㎡）

熱出力 kW/kcal/h: 24.3 kW/20,900kcal/h

使用燃料：灯油（JIS 1 号灯油） 燃料消費量 L/h：2.5L/h 油タンク容量 L：40L

燃焼持続時間：16 時間 圧及び周波数：単相 100V60Hz

定格消費電力（50Hz）W：点火時 99W 燃焼時 81W

製品質量（油タンク空時）kg：32kg

商品名	ジェットヒーター遠赤外線
定価	229,900 円(税込)
販売価格	183,920 円(税込)

資料 B 団体別令和5年度拠出金（案）

団体名	会員数	比率	令5 拠出額	追加拠出額	令和5 合計
寺家町内会	92	5%	6,440	4,500	10,940
鴨志田町内会	673	34%	47,110	30,600	77,710
鴨志田緑自治会	347	17%	24,290	15,300	39,590
市営住宅自治会	98	5%	6,860	4,500	11,360
鴨志田東団地	145	7%	10,150	6,300	16,450
鴨志田西団地	652	32%	45,640	28,800	74,440
拠点府負担				90,000	
合計	2,007	100%	140,490	180,000	230,490